

A Latent Class Analysis of Barriers to Exercise and Sports among Japanese Female University Students

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-11-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田中, 愛理 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003738

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 117 号

A Latent Class Analysis of Barriers to Exercise and Sports among Japanese Female University Students

(日本の女子大学生における運動とスポーツの障壁に関する潜在クラス分析)

田中 愛理 (たなか あいり)

博士 (スポーツ健康科学)

論文審査結果の要旨

【研究目的の特徴・独創性・論理性】

先行研究によって明らかにされてきた運動・スポーツの障害要因を利用し、統計的にクラス分けが可能である潜在クラス分析を用いて分類を行うことを目的としている。日本人の女子大学生の運動の障害要因に着目したことに特色があり、これまでの報告例が少ない統計解析手法を用いて、今後の運動・スポーツ活動参加の促進に寄与するための基礎資料とすることを旨とした点に一定の独創性がある。

【研究方法の妥当性】

Web アンケート調査を利用した調査研究により対象者の特性を明らかにしている。調査内容に関する審査会での質疑と指摘に対して、先行研究を参考にしながら整理がなされたことを含めて、一定の妥当性を確認した。潜在クラス分析についての手順と結果の記載がなされ、加えて χ^2 検定を行うことでクラス間の特徴を掘り下げた。また、本研究は倫理審査委員会の承認のもと実施されていることを確認した。

【結果・知見の新しさ】

潜在クラス分析を用いてクラスの分類を行うことを目的とし、最適クラス数の結果および個人のクラス分け、さらにクラスの特徴について、多くの解析結果が示された。女性が運動を継続していくことに対する個別の要因については、先行研究によって研究調査がなされてきたが、本研究ではそれらの潜在的な構造を明らかにしようとした試みによって新たな知見が得られた。

【考察および結論の妥当性】

運動の障害要因をもとに特定されたクラス間で、運動の実施状況や生活状況などの比較を行い、有意差が認められた項目を示した点に新規性があると考えられる。これらの結果を整理して考察を行い、説得力のある結論を導いている。また、対象者の状況に応じてデータを精査する必要性があることなど、潜在クラス分析の探索的な性質について研究の限界として考察中に示している。

【研究の当該分野における位置づけ】

本研究はスポーツ健康科学分野において、調査および解析の手続きに対し新たな視点

になると考えられる。人々の運動スポーツの実施率を上げ、それを継続してもらおうという当該分野の難しい課題に対して、潜在クラス分析を実施し個人的かつ複合的な結果を獲得できた点が大きな特徴である。個人的なニーズに対応し課題解消することが求められている近年の動向とも合致する研究成果であると考えられる。

【質疑に対する応答の適切性】

審査会においては、一部、研究の新規性や妥当性について自信を持った応答ができていなかったが、各指摘に対しての適切な修正を通して、自身の研究への理解を深めたのではないかと思われる。再検討や修正作業から総合的に応答の適切性が認められたと判断した。

【論文審査の結果】

当該論文の内容から、1年以内の学術雑誌への受理が見込まれる。審査会の内容およびそこでの指摘に対する対応等を総合的に判断して、博士の学位を授与するに相応しい水準にあると判断した。4名の審査員により「合」と判定して最終審査会での発表を認めた。なお、学位申請者は当該論文の研究計画、データ収集、分析、修正を行っており、筆頭著者としての役割を十分に果たしていると考えられた。